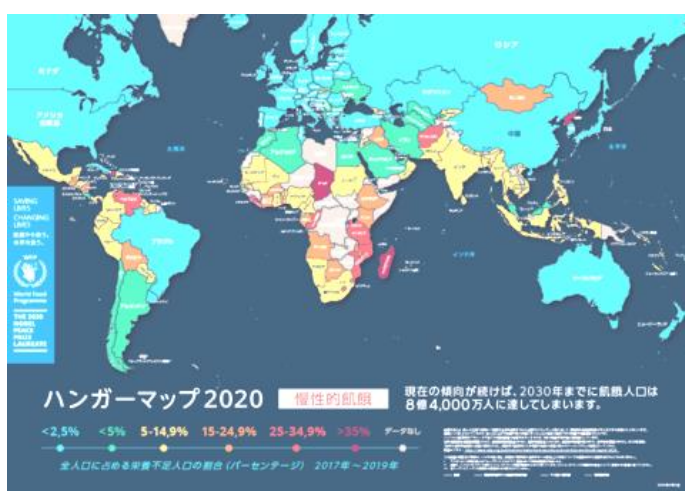


食べ物の大切さについて考えよう

2月10日(水)

世界には、食べ物を食べられない子どもたちがたくさんいます。すべての人が食べるのに十分な食料が生産されている一方で、世界ではおよそ8億人(世界人口の9人に1人)が飢餓に苦しんでいます。



ハンガーマップとは、世界の飢餓状況を、栄養不足人口の割合により国ごとに5段階で色分けして表現した世界地図です。

色が濃くなるほど、栄養不足の状態に陥っている人の割合が多くなっています。

国連 WFP のホームページより

食べ物を大切にするために、私たちができることの1つとして、食品ロス(食べられるのに捨てられてしまう食品)の削減があります。中学校給食センターの4~12月の残菜の合計は12、297kg(約12トン)でした。これは、1人あたりにすると1日29gです。昨年度より1トン残量が多くなっています。

みなさんそれぞれに苦手な食べ物があると思います。しかし、食べ残した分は捨てられてしまうということを、心に留めておいてください。また、成長期の自分の体にどのような栄養が必要なのかを考えて、苦手なものでも、もう一口食べるようにしてみましょう。1人ひとりの一口分が、給食の残菜量を減らし、食料ロスの削減につながります。

ごはんつぶも
のこさず食べましょう

